

藤島式嚥下グレード3（条件が整えば誤嚥減り、摂食訓練可能）と評価した。プリンを用いた直接嚥下訓練、ブローイング、全身可動域訓練等を実施した。訓練実施から1か月毎にVEで評価した。3～4か月目には検査時の誤嚥は無く、嚥下反射の遅延は認められるものの、初回に比較して改善が認められたため、家族介助によるたのしみ程度の経口摂取を許可した。

【考察】胃瘻患者の経口移行から胃瘻抜去に至る症例は少なくSuzukiら（World J Gastroenterol, 2010）は6.5%と報告している。本症例は経口移行に向けて訓練を実施し、楽しみ程度の摂食まで回復できた。しかし、4か月の訓練で楽しみ程度の摂食までしか回復できなかったことや患者の体力を考慮すると、胃瘻抜去可能となる3食経口摂取まで回復させることは困難であると判断した。胃瘻抜去まで達成できなくとも、経口摂取と胃瘻を組み合わせることで口腔機能を維持し、咽頭部の粘膜垢を食物によって除去することは誤嚥性肺炎の予防ともなることから、今後も訓練を継続していく所存である。

【結語】今回、胃瘻患者の経口摂取に向けた取り組みを経験したので報告した。

3) 新しい樹脂材料と接着性レジンセメントにおける接着強さに関する研究

○雨宮 幹樹¹, 小磯 和夫¹, 岡本 望
伊藤 歩¹, 宗像 佑弥¹, 五十嵐一彰^{1,2}
岡田 隆寛¹, 大友 悠資¹, 村上 大基¹
服部宗太郎¹, 鎌田 政善¹, 寺田 善博¹

(奥羽大・歯・歯科補綴
奥羽大・大学院・咬合機能修復²)

【緒言】近年、金属価格の高騰や金属アレルギー患者に対するメタルフリー修復が注目されている。そのような状況にあって、ポリプロピレン系の新しい樹脂材料であるウェルデンツが開発され、小白歯部までのジャケットクラウンとして保険適用された。しかし接着性レジンセメントに対して接着力を有しておらず、現在臨床では機械的嵌合力によって保持力を得ている状態である。

そこで本研究では、ウェルデンツ®に対して様々な表面処理を行い接着性レジンセメントに対

する接着力の獲得が見られるかを検討した。

【概要】材料は、ウェルデンツを板上試料に加工、包埋し、表面を研磨したものを被着試料とした。合着にはリンクマックス（GC社）、シランカップリング材としてエスペジル（ESPE社）を使用した。

被着面の処理は、アルミナサンドブラスト処理を行いシランカップリング処理をしたもの（表面処理1）、アルミナサンドブラスト処理を行ったものにロカテックプラス（ESPE社）を用いてサンドブラストを行い、シランカップリング処理をしたもの（表面処理2）、アルミナサンドブラスト処理を行った後、シラノペンにて通法で処理し、シランカップリング処理をしたもの（表面処理3）とした。

各試料を表面処理後、直径6mmの円になるよう被着面積を一定とした。接着する試料は、リンクマックスを直径6mm、厚さ3mmの円柱状に硬化させたものを用いた。この試料をリンクマックスを用いて1.0kgの荷重をかけて合着した。各試料は6個ずつ作製した。

剪断接着試験は、クロスヘッドスピード毎分0.5mmの条件下で行った。有意差検定は、Kruskal Wallis順位検定後Bonferroni補正Mann-Whitney検定にて多重比較を行った。

【結果】表面処理1は1.61±0.56MPa、表面処理2は13.29±0.84MPa、表面処理3は0.42±0.68MPaを示し、ロカテック処理にシランカップリング処理をしたものが他の処理法に比較して有意に高い値を示した。

【考察】ロカテック処理により、ウェルデンツに対してシランカップリング材がしっかりと結合し、レジンセメントの接着力が向上したと考えられる。イトロ処理はジルコニアなどに対して高い接着力を示しているが、本研究においては接着力の向上は見られなかった。これは、ウェルデンツが熱可塑性材料であるため、炎を当てた時に表面が溶けてしまい、接着力が失われてしまったと考えられる。